

# 名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2024年 3月 20日

学部・学科名 世界教養学部国際日本学科

担当教員氏名 徳本浩子

1. 区分	中期留学 ・ <u>語学研修</u> ・ 海外実習
2. プログラム名称	国際日本学科春期オーストラリア英語研修
3. 渡航先国名	オーストラリア
4. 派遣期間	2024年 2月 9日 (金) ~ 2024年 3月 18日 (月) 39日間
5. 派遣先教育機関名	アデレード大学
6. 参加学生数	22名
7. 派遣目的	英語力の強化と異文化体験
8. 派遣内容	アデレード大学 English Language Centre における5週間の集中英語プログラムに参加し、英語力の強化を図る。また、ホームステイによって異文化体験を得る。
9. 成果	集中英語プログラムに参加することによって英語力が飛躍的に伸びたことは言うまでもないが、ホストファミリーや世界各国からの留学生とのコミュニケーションを通して、世界における日本、国際人としての自己を改めて見つめ、自ら積極的に発信していく姿勢を学んだ。これは大変に貴重な異文化体験であり、人間としても大きく成長したように思う。
10. 備考	

以上

## 2023 年度国際日本学科 春期オーストラリア短期英語研修

私は 2024 年の春休みに約 5 週間、オーストラリアのアデレード大学での語学研修に参加した。アデレード大学は、創立 150 年を迎える歴史ある大学である。私にとって初めての海外経験となった今回の語学研修は、すべてが新しい体験でとても刺激的であった。

ホームステイももちろん初めてであったため、出発前からとても不安であった。しかし、アデレードに到着してすぐその不安は消え去った。ホストファミリーは温かいハグで迎えてくれ、初日から海沿いのカフェに連れて行ってくれた。さらに、アデレードで行くべき場所をたくさん教えてくれ、約 5 週間の間、遊びに出掛けるとき一度も行き場所に困ることはなかった。さらに、家の裏がビーチであったため、よく夕食後にホストファミリーとサンセットを見に行った。

語学研修であるため、毎日 1 日 4 時間アデレード大学で英語の授業のプログラムに参加した。私たちはレベル別クラスに分けられ、国籍の違う学生や日本人でも様々な地域の大学からの学生とともに授業を受けた。授業では、リーディングやリスニングはもちろん、発音をよくするための授業、勇気を出して街にいる人に話しかけてインタビューする授業といった日本では受けたことのないような授業もあった。英語しか伝わらない環境での授業は、初めは自分の意見をうまく伝えられず苦勞した。しかし、常に英語で話していたことで徐々に英語で発言することができるようになり、自身の英語力の向上を実感した。毎週金曜日は大学の外に出て、博物館や美術館に行った。特に博物館では、アボリジニの展示が多くあり、日本だけでなく、オーストラリアでアボリジニについて学ぶことができとても良い経験になったと感じる。

休日や授業の前後にはアデレードの街を友人と散策した。アデレードにはとてもきれいなビーチが数多くあり、ビーチで友人と見たサンセットは忘れることのできない一生の思い出となった。大学が街の中心部にあるということもあり、周辺にはショッピングモールやレストランがあり、常に多くの人でにぎわっていた。また、1 か月続くアデレードフリンジフェスティバルと呼ばれる祭りの期間中だったため、日本では味わえない海外の祭りの雰囲気を実際に楽しんだ。

約 5 週間という短い期間だったが、英語力の向上だけでなく自身の内面の成長を感じた。海外生活の経験がない私にとって大きな挑戦であったアデレード語学研修を経験して、自分に自信がついた。この語学研修で経験することができた多くの経験を、将来に生かしていきたいと思う。

## 2023 年度国際日本学科 春期オーストラリア短期英語研修

2024 年 2 月 10 日から 3 月 17 日までの 5 週間、私はサウスオーストラリア州のアデレードでの語学研修に参加しました。都市は活気に満ち、周辺には多くの観光地があり、非常に魅力的な場所でした。

平日は、アデレード大学の ELC (English Language Center) で 1 日 4 時間の授業を受けました。私のクラスメンバーは全員日本人でしたが、他のクラスには日本以外の国からの人々もおり、異なる年齢、国籍、文化背景を持つ人々が英語を通じて意思疎通を図る場面がありました。授業内では自発的な発言が求められることもあり、時には難しさを伴うこともありましたが、常に英語の環境に身を置いていたことで、自分の英語力が 1 週間目からすでに向上していることを実感しました。

休日や授業の前後には、アデレードの街を散策しました。授業後にはビーチで夕日を楽しんだり、クラスメイトと一緒に近くのショッピングモールで買い物を楽しんだりし、アデレードでの生活を満喫しました。

約 1 か月の研修期間中は、日本では経験できないような出来事に常に刺激を受けました。例えば、現地の料理を食べることや地元の人々と交流することで、新たな視点を得ることができました。さらに、多様な国の文化が交わる環境に身を置くことで、個々の尊重とお互いの理解の重要性を強く感じました。私を温かく迎え入れてくれたホストファミリーや、授業で指導してくれた先生方に心から感謝したいと思います。このような経験を通じて、オーストラリアに住む人々の心の広さや寛容さに深い感謝の意を抱くようになりました。恥ずかしい話ですが、ルームメイトが帰国した晩、急に寂しさや孤独を感じ、思わず泣いてしまいました。その時、ホストファミリーは「しばらく一人になる？何かフルーツ食べる？」と親身に接して気持ちを落ち着かせてくれました。彼らの優しさと思いやりに触れ、心が温かくなりました。この経験は私にとって貴重なものであり、自分を支えてくれる人々の大切さを再確認する機会となりました。

総じて、この研修期間は私にとって非常に充実したものでした。英語力の向上はもちろんのこと、異文化への理解や柔軟性も養うことができました。今後もこの貴重な経験を生かし、国際的な環境で自信を持って活動していきたいと思っています。

## 2023年度国際日本学科 春期オーストラリア短期英語研修

私が今回の春季アデレード研修に参加を決めたきっかけは、5週間と比較的短期の研修でそれまで留学経験のなかった私でも挑戦しやすいと思ったことと、アデレードという場所を知らなかったため、実際に行ってどのような場所なのか見てみたいと思ったからです。

大学は授業時間が曜日によって午前と午後に分かれており、午前は8時～12時、午後は12時～4時まででありました。月曜日から木曜日までは英語の授業を、金曜日は選択授業でグローバルコミュニケーションという授業を受けました。前者は教科書を使った学習やリスニング練習などがメインでしたが、研修の最終週には、オーストラリアの伝統美術であるアボリジナルアートのオリジナル作品の制作に取り組みました。後者は主にSNSとコミュニケーションについて学び、フィールドワークの一環でクラスメイトとチームを組んで街中に出て、街の人に使っているSNSとSNSを使うメリットとデメリットをインタビューして回りました。どなたも気さくにインタビューに応じてくれ、スピーキングの良い実践練習ができたと思います。

また、私はもともとひどい方向音痴で、アデレードでも道に迷ってしまうことがよくありました。その際「英語が下手でもとにかく人に聞く」ようにしたのですが、その都度いろいろな方に助けていただくことができ、なんとか対処することができました。また、交通量の多い横断歩道を渡るのが怖く、なかなか渡ることができずにいた際には、近くにいた男性に「どうしたの？」と声をかけられ、道を渡りたいけれど車が多くてなかなか渡れないことを話すと、私の手を引いて横断歩道を渡るのを手伝ってくれました。これらの経験から人に頼る大切さと人の温かさを学ぶことができました。

また、週末にはホストシスターがビーチに連れて行ってくれ、シスターの友人とビーチの近くのタイレストランでかき氷を食べながら話したり、別の日にはホストマザーと家の近くの教会に行ってミサを見たりと、日本ではなかなかできない経験をすることができました。また初めてミサを生で見た際に、教会で膝立ちでお祈りをしている方を目にしました。ホストマザーに聞いてみると、膝立ちはイエスキリストに対する敬意を表する姿勢であることを教えてくれました。普段の自分の生活圏では体験できない文化に触れることができ、とても良い経験となりました。

今回の研修は5週間と短かったですが、語学力を磨くだけでなく、現地の文化を体験することができ、充実した時間を過ごすことができました。